横浜陶芸友の会だより

第１８３号
令和４年
11月21日発行

「作品展に向けて」

横浜陶芸友の会 会長　高橋　光男

新型コロナ感染症対策に明け暮れている日々が続き、どんよりとした雲がなかなか晴れなくて、心のどこかにつっかえ棒があってすっきりしませんが、皆様いかがお過ごしですか。

昨年度は願い虚しく、止まる事を知らないコロナ。再びの緊急事態宣言下での開催となり開催の喜びや感謝と、予想できない様々な要因への不安や戸惑いが共存していました。

そこから、だんだんとコロナの対応が見えてきて少し良い兆しが感じられ、こんな時だからこそ「土」と「手」で生まれる作品たちの温もりが何かを届けることができたら・・・・

作品が本当にささやかでも日々の心の変化の小さなきっかけになり得たら・・・・

土は自然から生まれ、自然は土へと帰っていく・・・

人の手が土を美しい器に変えてゆく、作陶する楽しさ、器の持つ肌に釉薬を掛ける楽しみ、また絵付をして美を楽しみ そんな焼き物の世界へ・・・

（横浜陶芸友の会HPトップ画像から）

友人知人のみならず、通りがかりのひとびとの視線も浴びて作品たちも嬉しそうに輝き、我々会員もこの時期だからこそ見えるもの、感じること多々あり、新たな発見と経験に恵まれた作品で空間を創造できる喜びを楽しみましょう。

今年度はどんな状況下でも柔軟で前向きな会員を、心から応援してくださる知人等の情熱が心強い後押しとなるでしょう！！

役員会の報告

総務部より

11月13日（日） 13時より
杉田地区センター中会議場において
会長・副会長・各役員8名で話し合いました。

議題は「作品展に向けて」「各部報告」「その他」でした。

○事業部　第43回「作品展」について
会場・日程・その他　決定

○専修部　秋期焼成会の報告

○広報部　4月「友の会たより」発行できず
8月「友の会たより」発行
11月「友の会たより」発行

○総務部　8月「友の会たより」発送
11月「友の会たより」発行
「作品展のご案内」発送予定

※詳細については各部の報告でご確認をお願い致します。

○その他　「友の会」からの「案内ハガキ」は、12月中旬に投函いたします。

※「案内はがき」を同封いたしましたが更に必要な方は高橋会長までお問い合わせください。

※会員減少に伴い「友の会の組織」の検討も必要になってきました。

※「焼成会」も参加者が少なくなり、存在意義はあるのか？（まだ、継続はしますが）

※「作品展の日数」は今のままでいいのか？など、高齢化、会員数の減少等の問題が話し合われました。

◎「作品展」で皆様にお会いできる事を楽しみにしております。

「秋の焼成会（研修会）」報告

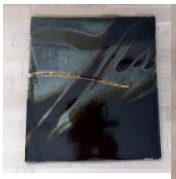
専修部より

【22年度 秋の焼成会終わる】

9月25日（日）今年度の「秋の焼成会」が無事終了しました。

今年は、コロナ禍や猛暑の影響もあって体調を崩したり、作陶に気持ちを奮い立たせるのに苦労した人が多かったようです。

それでも陶芸を愛する面々、作品も集まり焼成に至りました。



新会員の深川さんは、黄瀬戸・タンパンの皿や角大皿など7点を焼成、「考えていた以上の出来栄え」と満足顔。

常連の池見さんは黒天目と朱赤の二重掛けの一輪挿しに「早速、玄関に置く」とのコメントでした。

また井上部長から、最近は会員数や焼成量が減少してきているため、経費削減の一環として焼成費の見直し、参加者あるいは作品数を増やす方策などを検討していく提案がなされ、専修部として確認しました。

参加人数	9人
作品数	34点
重量	約12kg
釉薬	唐津ワラ白

青織部、斑唐津、飴釉、トルコマット、木灰透明など

窯詰の様子

○第43回「作品展」のお知らせ

事業部より

【会期】令和5年1月10日（火）～15日（日）

【会場】かなっくホール　A室

（JR東神奈川駅　下車3分）

【特設コーナー】「マグカップ」

【申し込み締切り】令和5年1月5日（木）

【申し込み先】

※「出展作品一覧」も同封してください

※申し込み方法と「作品展」の詳細については、会報の11月号と一緒に会員の皆様に送付いたしました。

【受付時間】

令和5年1月10日（火）11時～

※開場は　13時　から

【搬出】　1月15日（日）16時より

【会場当番】

◎例年通り　ご協力　お願いいたします。

☆新型コロナ感染防止のため

常時「マスクの着用」「体温チェック」

「こまめな除菌」など、昨年度と同様に気を付けましょう。

【懇親会】【作品の説明会】

※今年度も行いません。

「今年の作品」　大日方　毅

「備前土と唐津土」（（電気窯による焼成）

穴窯での焼成が出来なくなり「さて何を作ろうか？」と考えた時、元々気に入っていた「三島手」に挑戦する事にしました。

①

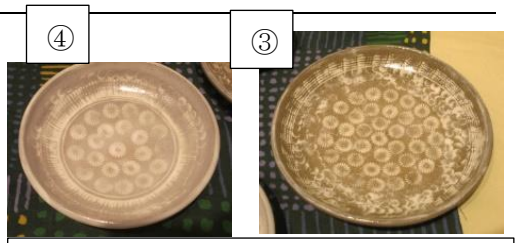
①「ぐい呑み」(3点)　唐津土
透明釉　・三島手
②「ぐい呑み」(2点)　唐津土
半艶消し透明釉　・三島手

②

「三島手」の暖かさと「透明釉」の違いを試みてみました。

模様の線描きに見える所は爪楊枝をT字型に作り一本ずつ押したものです。

白化粧の薄い所はスポンジの水が多くて流れてしまったためです。

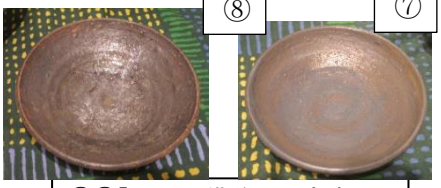


④　③

③「平皿」　唐津土　透明釉　三島手
④「平皿」　唐津土　半艶消し透明釉　・三島手

⑤の「中鉢」は出来る限り穴窯に近い作品を目指した物で「サヤ」に赤松灰やワラを入れ焼成しました。奇麗な備前の緋色と松灰の色が出ました。

⑥の「中鉢」は呉須の色合い（濃淡）の変化を試みたものです。

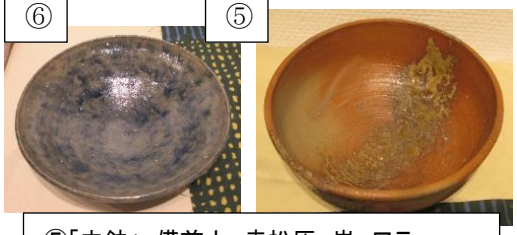


⑧　⑦

⑦⑧「小皿」　備前土＋唐津土
二酸化マンガン　酸化第二鉄

⑦⑧の「小皿」は金や銀の発色の変化を試みた作品です。

備前と唐津の土を混ぜ、釉薬として二酸化マンガンに酸化第二鉄を掛けたものですが、掛ける順番を逆にすると色は出ませんでした。

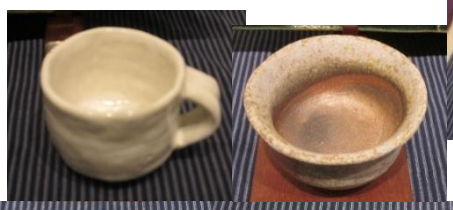


⑥　⑤

⑤「中鉢」　備前土　赤松灰　炭　ワラ
⑥「中鉢」　備前土＋唐津土　透明釉　呉須

「今年の作品」　高橋　尚子

「俎板皿」の裏側



①「俎板皿」　織部
②「皿」　穴窯焼成
③「小鉢」　穴窯焼成
④「マグカップ」

このルリ色にも見える「俎板皿」は専修部で焼成した「織部」です。

本来、裏側は拭き取るのですが時間がなく、掛けたまま焼いたので土跡が残りました。

穴窯作品は、沼津の穴窯に入れてもらったものです。

「今年の作品」　池見千枝子

⑦「うし」、今年は「寅年」ですが、2月3日まではまだいいかな。「丑年」の孫がいるので、もらってくれるかわからないけど。
「織部釉」の作品は専修部で掛けた物です。

①「花入・ぐい呑・湯呑」 穴窯
⑤「角皿」　⑥「箸置」

②「長ぐつ型花入」 ⑦「うし」

⑩「ハガキ掛」

---

④「丸型大鉢」は作品全体にチタンマットを掛け、口辺に乳緑釉を掛けました。こんなピンクになるなんて想像もしていなかったのだが、窯から出して来たらこのような桜の花びらが散ったように出来上がっていたので、すごくうれしかった。今年の一品です。
ピンクの釉薬をかけたようで、とてもきれいです。

④「丸型大鉢」

⑨「花びら小鉢」 ⑪「楊枝

③「押し柄角皿」

「角皿」

⑧「手付小物入・角皿・花型皿」

「今年の作品」　深川　貴子

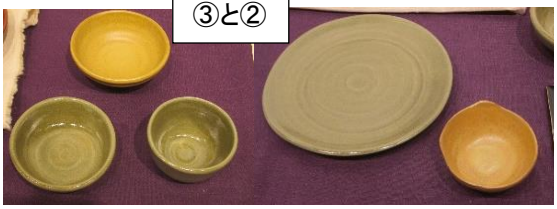
①

ロクロで引いたのですが、薄く引くつもりがヨレた 失敗作。でも味がある。

①「平らなお皿を作ってくれ」と頼まれたのだが割れちゃうし、うまくいかなかった。

①「掛け分け板皿」　②「丸皿」　③「小鉢」5 個
④「小鉢（鎬）」2 個　⑤「マグカップ」3 個

⑤と②



③と②

「今年の作品」　本橋昭彦

①「鼠志野・四方平鉢」 発水剤で絵を画く
②「志野茶盌」・「鼠志野・筒茶盌」
③「刷毛目丼」 黒御影粘土
④「ビアマグ」 信楽並土
⑤「黄瀬戸茶盌」もぐさ土
・（特設コーナー）「片口」　自然釉

④はロクロで「小鉢」を引いたら分厚くなってしまったので「削ろう！」と思って削ってみました。
いつも薄いと縁が割れやすいのですが、これだと割れなくて良いです。

④「小鉢（鎬）」2 個

④「ビアマグ」 信楽並土

③「刷毛目丼」 黒御影粘土

②「志野茶盌」・「鼠志野・筒茶盌」

①「鼠志野・四方平鉢」

今年の作品　高橋 光男

＜沼津　穴窯焼成＞
①「片口」（自然釉） 古信楽細
②「二段重箱」（自然釉） 古信楽細
③「歪み猪口」（窯変） 古信楽細
④「俎板皿」（織部釉） 信楽赤 7 号
（専修部焼成会）
⑤「片口」（自然釉） 古信楽細

今回の作品は、一昨年４人で沼津の穴窯で４日間焼成した作品がほとんどです。温度が上がらなくて悩みながら焚きました。

「二段重箱」は蓋が金・銀彩に輝き重箱の中にも灰がたっぷりかかり奇麗な作品になりました。窯の真ん中の上段に置きました。

「片口」（自然釉）
古信楽細

「今年の作品」

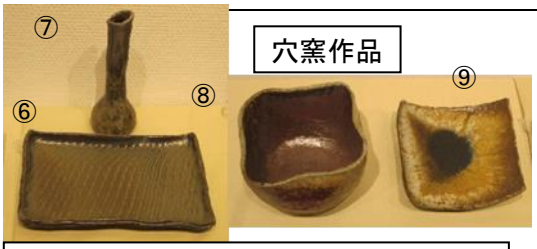
吉村希世子

「　錬り込み作品　」
①「皿（錬り込み）」　本白＋黒泥　酸化焼成　透明釉
②「小鉢（錬り込み）」本白・黒泥　酸化焼成　透明釉
③「小鉢（錬り込み）」本白・黒泥　酸化焼成　透明釉
④「角皿（錬り込み）」本白・黒泥　酸化焼成　透明釉
⑤「角皿（錬り込み）」本白・黒泥　酸化焼成　透明釉

この錬り込み作品は本当はもっと大きくなる予定でした。けれど、途中で割れたので勿体ないから、たまたま白い粘土があったからその上に載せて叩いたのが②の作品です。

①は厚かったので周りに粘土をくっつけました。④は二枚だが、本当は4枚の大きな四角皿になるはずでした。模様も市松模様で。

③と⑤は細いのを3本作り周りに白を着けたのですが奇麗にできました。



穴窯作品

⑥「四角皿」信楽・黄土　穴窯焼成　自然釉
⑦「一輪差し」信楽・黄土　穴窯焼成　自然釉
⑧「鉢」信楽・黄土　穴窯焼成　自然釉
⑨「角皿」信楽・黄土　穴窯焼成　自然釉

この穴窯の作品は伊豆で焼いていただいたものです。何時もは手伝いに行くのですが今年はコロナだから、行かれませんでした。

ここは何時も長い時間焼くので⑨の作品は灰がたっぷり溜まってとても奇麗な作品になりました。

【編集後記】

・会報が一回少なかったので第42回「作品展」の作品紹介を五名残してしまいました。

来年度の最初に特別号として掲載したいと思います。ご了承ください。

・世界的にマスクを外し落ち着くかに見えたコロナがジワジワと増加傾向にあり、一月の「作品展」辺りがピークになるとの噂も出てきました。（無事に開けるか心配です）

昨年度の経験を活かしながら、感染に気を付けて楽しみましょう。

・高齢化に伴い「終活」に向け釉薬や窯を、そろそろ整理したい。と、お考えの方が多くなってきていると思われます。

参考意見としてこの会報でも取り上げていきたいと思いますので、色々な場でご意見をお聞かせください。

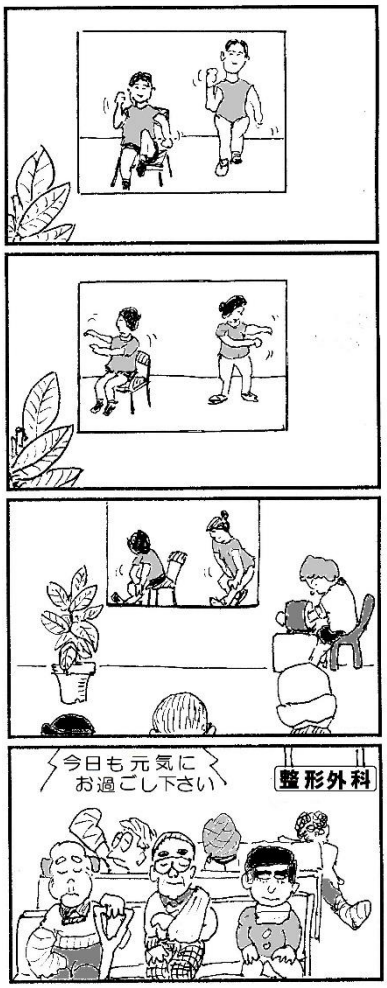
よろしくお願いいたします。

鍋島

陶陶さん

第　105 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

http://www20.atpages.jp/tomonokai/

横浜陶芸友の会だより
第 183 号
（令和 4 年 11 月 21 日発行）
発行人 横浜陶芸友の会
会長 高橋 光男